

### 3. 史跡指定から買上げまで

## 「開発圧力」から守る

昭和40年代初頭

昭和40年代初頭、宅地開発の波は急激に大宰府の史跡を襲おうとしていた。大野城跡がある緑豊かな四王寺山の麓、崇徳寺跡が団地に姿を変えようとしたのをきっかけに、文部省文化財保護委員会（現文化庁）は、史跡保存にのりだした。いろいろな世論がとび交い、地元住民の間には不安から、反対運動がひろがっていた。観世音寺近くのこの畑にも「反対」の立札が立てられた。

告示に向けて  
揺れ動いた住民



昭和45年



昭和37年



## 5. 史跡買上げの歴史

史跡名称	史跡指定面積 【ha】	買上面積 【ha】	買上開始年度
特別史跡 大宰府跡	32.599	20.680	昭和39年度～
特別史跡 水城跡	16.414	12.958	昭和45年度～
特別史跡 大野城跡	313.425	168.344	昭和50年度～
史跡 観世音寺及び子院跡附老司瓦窯跡	89.752	57.138	昭和43年度～
史跡 筑前国分寺跡	2.464	1.120	昭和44年度～
史跡 国分瓦窯跡	0.183	0.176	昭和46年度～
史跡 大宰府学校院跡	5.404	2.228	昭和42年度～
史跡 宝満山	25.330	0.000	未買収 (平成25年度指定)
合計	485.571	262.644	

買上げを要しない面積（既公有化地）：101.846ha

公有化率：68.4%

## 6. 広い史跡地ゆえの悩み



公有化に時間がかかり、史跡整備が遅れている箇所が多い

史跡整備費用の負担も大きい

【結果として】

未整備地を広く抱える

住民と共存する史跡ゆえに管理費用負担も大きい